

第9期

株主通信

平成23年4月1日 ▶ 平成24年3月31日

証券コード:6268



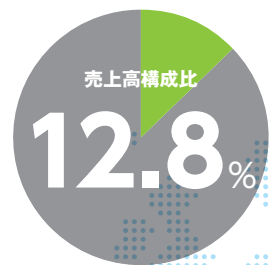
Nabtesco

moving it. stopping it.

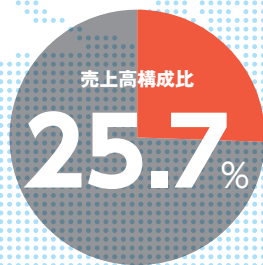
Global Challenge : Advance to the Next Stage

—— 海外成長市場でさらなる飛躍へ ——

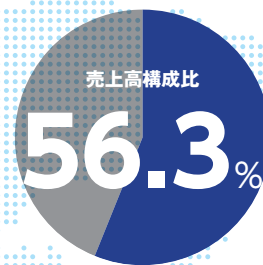
中期経営計画の初年度である今2012年3月期の海外売上高は43.7%に達しました。さらなる発展を実現させるため、2020年度(平成32年度)における当社の目指す姿をイメージした新長期ビジョンを策定しました。



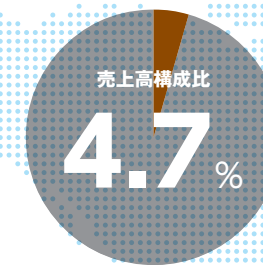
ヨーロッパ
売上高 **252** 億円



アジア
売上高 **510** 億円



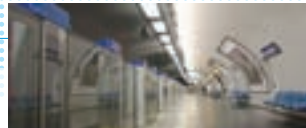
日本
売上高 **1,118** 億円



北米
売上高 **93** 億円

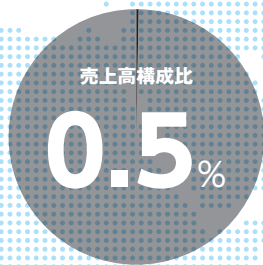
TOPICS スイス

自動ドア事業におけるM&A
Gilgen Door Systems AG



TOPICS 中国

鉄道事業の中国合弁会社
江蘇納博特斯克今創軌道設備有限公司



その他の地域
売上高 **9** 億円

連結売上高
(2012年3月期)

1,985 億円

中期経営計画
売上高目標
(2013年度) **2,400** 億円

新長期ビジョン
売上高目標
(2020年度) **4,000** 億円

● 精密機器事業主要戦略

- 津工場の生産能力増強。
- 太陽追尾駆動装置の拡販。
- 世界販売拠点(日、米、欧、中)の強化。

● 輸送用機器事業主要戦略

- 鉄道車両用機器
合弁会社による中国市場拡販および欧州市場への参入。
 - 船用機器
MRO*ビジネスの拡大および中韓市場での拡販。
 - 商用車用機器
国内MRO*ビジネスの拡大および新製品の拡販。
- *MRO: Maintenance Repair Overhaul

● 航空・油圧機器事業主要戦略

- 油圧機器
グローバル生産拠点(日、中、タイ)の能力増強。
- 航空機器
MROビジネスの拡大。米国への一部生産移管。自動化投資等による生産抜本改革。

● 産業用機器事業主要戦略

- 自動ドア
国内外サプライチェーン見直し。ギルゲン社(スイス)統合による世界4極での事業展開。
- 包装機
中国大連現地法人(生産拠点)設立による中国市場シェア拡大。
- 専用工作機
カスタマイズ製品の上市と市場シェア拡大。



グローバルに成長し続ける ベストソリューションパートナーとして 世の中に新たな価値を提供します。

株主の皆さまには、平素より格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。ここに当社第9期(2012年3月期)の営業状況をご報告申し上げるとともに、今後の事業展開についてご説明させていただきます。

代表取締役社長 **小、谷和朗**

Q 当期を振り返り、
営業状況についてご説明願います。

A 多くの懸念要素に見舞われた1年でしたが、
各事業がカバーしあい、
売上・利益とも過去最高となりました。

当期の連結業績は、売上高1,985億円(前期比17.3%増)、営業利益228億円(同13.1%増)、経常利益246億円(同10.2%増)、当期純利益147億円(同10.2%増)となり、売上・利益ともに過去最高値を更新しました。震災による影響にはじまり、タイで発生した洪水被害、欧州債務危機、円相場の高止まり、そして中国の景気減速など、多くの懸念要素に見舞われた1年でしたが、各事業がカバーしあう形で全体の好調を維持することができました。

事業別に振り返りますと、精密機器事業は、予想を超える産業用ロボットの需要拡大により、大幅増収となりま

した。当期は増産に対応すべく生産能力増強のための大型投資を行ったため、短期的には増収に見合う利益拡大には至っていませんが、今後の成長牽引が期待できる状況です。

輸送用機器事業では、昨年的高速鉄道事故を受けて、中国の鉄道網整備計画が先送りとなったことから、鉄道車両用機器が減収となりました。船用機器は中国向けスポット需要により、増収となりました。一昨年に分社化した商用車用機器は、トラックの新興国需要の増加により増収となり、順調に業績回復と体質改善が進んでいます。

航空・油圧機器事業では、ボーイング社を主とする航空機器の民間需要が昨年からの回復し、防衛関連需要についても堅調に推移しました。油圧機器は、中国の建設機械需要が下半期には減速したものの、上半期の拡大が寄与したため、通年では増収となりました。

産業用機器事業では、国内需要の回復に加え、スイス

Kaba Gilgen AG(Gilgen Door Systems AGに社名変更、以下ギルゲン社)を昨年4月に買収したことにより、自動ドアが増収となりました。包装機械も中国への売り込み強化が奏功し、増収となりました。

Q 生産増強と企業買収について
詳しくお聞かせください。

A 市場変化に対応した生産増強を実施。
自動ドア事業は企業買収を機に
成長エンジンに位置付けます。

まず、精密機器事業の生産増強についてですが、産業用ロボットの大幅な需要拡大を受け、減価償却費の範囲内で行ってきた従来の投資から先行型投資にシフトし、お客さまの業界の変化に対応していく必要が出てきました。

当期は、津工場(三重県)の能力増強のための投資を行い、精密減速機の生産能力を月産3.5万個から同5万個に引き上げました。次期(2013年3月期)は、引き続き投資を行い、自動化の促進等により生産性を向上していく計画です。産業用ロボット市場は今後、年8%の成長が予想されており、これを前提とすると、当社は今回の生産増強で、2016年までは需要拡大に対応していける体制となりました。

もう一つの生産増強は、油圧機器事業です。建機用走行モーターを生産する垂井工場(岐阜県)を増強しながらも、建屋は増設せず、スクラップアンドビルドにより敷地面積当たりの生産性向上を図りました。同時に、中国の江蘇省常州市に江蘇納博特斯克液圧有限公司を設立して、今後は垂井工場からの生産移管を行い、垂井工場は

コア部品を製造するマザー工場機能にシフトしていきます。今後も積極的な投資を行い、垂井工場の生産能力引き上げを計画しています。

企業買収については、前述の通り昨年4月にスイスのギルゲン社を買収(取得価額約180億円)し、欧州で長い歴史と高いブランド力を持つ同社の自動ドア事業を傘下に収めました。買収の大きな目的は、今後の成長が見込まれるアジア新興国市場への展開において、シナジーを創出すること、そして、ギルゲン社が有するEU規格を活かし、有利な営業展開につなげていくことです。

当社の自動ドアは現在、国内シェアのおよそ5割を占めていますが、中国など海外展開においては大きな進展がなく、一定の利益を確保しながらも閉塞的な状況にありました。今回の買収を機に、自動ドア事業をあらためて成長エンジンと位置付け、グローバルマーケットでの規模拡大を果たしてまいります。



トッピメッセージ

Q 3カ年中期経営計画の進捗状況は いかがですか？

A 海外事業を拡大していくための重要課題 の一つとして、グローバル人材の獲得・ 育成に注力しています。

当社は、2014年3月期を最終年度とする3カ年中期経営計画「Global Challenge: Advance to the Next Stage」(以下、「Global Challenge」といいます。)を推進中です。当期はその初年度となりました。

「Global Challenge」は、海外成長市場でのさらなる飛躍を成長テーマに掲げ、計画最終年度の連結業績における「売上高2,400億円」「営業利益313億円(営業利益率13%)」「当期純利益203億円」の達成を目指しています。これらの定量目標については、当期の好調な業績により、おおむね順調に進捗しています。

海外事業を拡大していくための重要課題の一つとして、当社はグローバル人材の獲得・育成に注力しています。新卒採用における外国人比率を高める一方、海外拠点でも現地人材の積極的な登用を進めています。そこで重要となるのが、当社の企業理念を地域・国籍を問わず浸透・理解させていく取り組みです。今年の10月1日の創立記念日には、グローバルな発展を実現していく上で、当社グループ全社員の指針となる「ナブテスコ・ウェイ*」を制定します。

*「ナブテスコ・ウェイ」とは従来の「企業理念」、「ナブテスコの約束」に新たに「ナブテスコの約束」を実践するための行動指針を加えたものです。

「Global Challenge」2年目となる次期(2013年3月期)の連結業績は、売上高2,100億円(当期比5.8%増)、営業利益242億円(同5.9%増)、経常利益261億円(同5.9%増)、当期純利益168億円(同13.8%増)と、引き続き増収増益を見込んでいます。

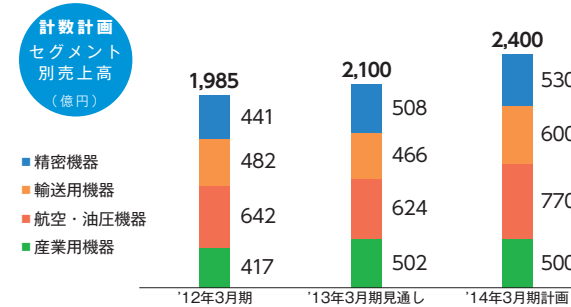
今年は中国において、最高指導部の交代が予定されており、基本的には中国市場の成長回復につながる動きと捉えています。そのため、次期前半は、下半期の業績ベースを維持し、次期後半からは中国における売上比率の高い鉄道カンパニー、パワーコントロールカンパニー、精機カンパニーを中心に拡大が期待できるものと予想しています。

Q 新たに策定した長期ビジョンについて ご説明願います。

A お客さまへの提案性を強化し、新しいソ リューションを社会に提供することで、 持続的な成長を目指します。

このたび当社は、2020年度の目指す姿をイメージした新長期ビジョンを策定しました。「グローバルに成長し続けるベストソリューションパートナー」をテーマに掲げ、経営目標として、連結業績における「売上高4,000億円」「営業利益600億円(営業利益率15%)」「ROA11%」「ROE18%」を達成していきます。

経営目標については、現在の売上高の2倍、その15%の利益という明快な数値を打ち出していますが、市場の成長予測と各事業部門の計画に基づき、既存事業の拡大、M&Aによる収益寄与、そして、環境関連分野など



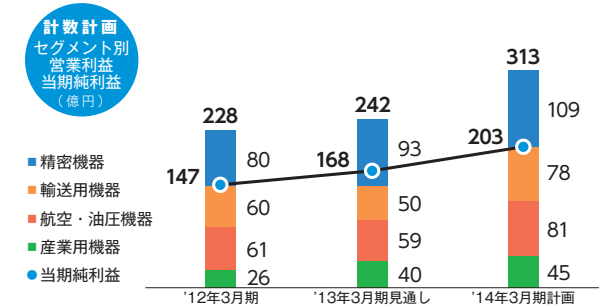
新規事業領域の成長を勘案して算出したものです。この新規事業領域については、売上高目標4,000億円のうち250億円を見込んでいます。

これからは、お客さまのご要望に応え、QCD(品質・コスト・納期)対応力の強化によって満足度を高めていくだけでは、新興国企業の急速な追い上げの中で優位性を保ち続けることができません。お客さまに対する提案力を強化し、新しいソリューション(製品・サービス・ビジネスモデル)を社会に提供し続けていくことが、当社の持続的な成長において不可欠であると考えています。この長期ビジョンは、そうした提案性による価値創出の方向性を「ベストソリューションパートナー」として明確化し、グローバルな発展を実現していくものです。

Q 最後に、株主の皆さまへの メッセージをお願いします。

A 「あり姿のナブテスコ」、すなわち等身大 の企業像をお伝えするべく、積極的な情 報発信に努めてまいります。

当社は、株主の皆さまへの利益還元について、当社



グループ全体の業績をベースに戦略的な成長投資、財務健全性の確保、株主還元のバランスおよび安定配当を考慮した企業収益の適正配分を図ることを当社の配当方針とし、中期経営計画期間中の配当については、連結ベースの配当性向30%を目標に、安定した配当の継続を目指しています。当期の配当はこの方針に基づき、年間配当は34円(前期比9円の増配)、配当性向は29.1%となりました。

今後の配当につきましても、配当性向を基準としつつ、業績の変動局面においても安定配当の維持を念頭に置いてまいります。

当社は、株主の皆さまに対し「あり姿のナブテスコ」、すなわち等身大の企業像をお伝えするべく、積極的な情報発信に努めてまいります。営業面・財務面の情報を正確かつ詳細に開示することはもちろん、「今、何をしようとしているのか」「どんなことを目指しているのか」という、社会の発展と当社の関わりをご理解いただくことに注力していきたいと考えております。そのことを通じて、より多くの皆さまが当社事業に魅力を感じていただければ、誠に幸いに存じます。

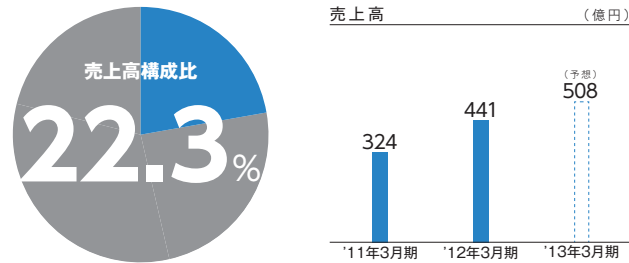
株主の皆さまにおかれましては、これからも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

国内外の産業用ロボットの需要の拡大、上半期の中国の建設機械需要拡大、また、2011年4月に実施したスイスのGilgen Door Systems AG買収の効果などにより、増収、増益となりました。

精密機器事業



事業内容 精密減速機、精密アクチュエーター、三次元光造形装置、真空装置など



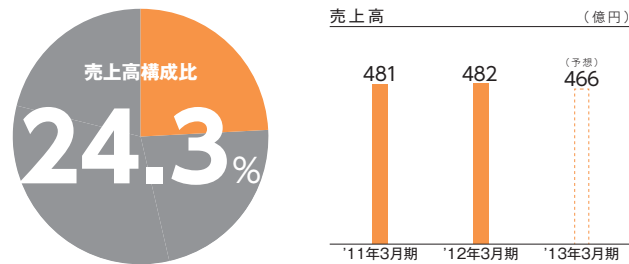
精密機器事業の売上高は前期比36.3%増加の441億円、営業利益は同23.9%増加の80億円となりました。

精密減速機は、国内外における産業用ロボットの需要拡大を受けて増収となりました。

輸送用機器事業



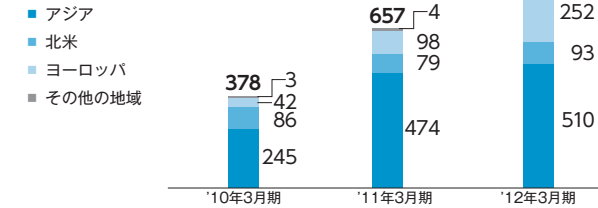
事業内容 鉄道車両用ブレーキ・ドア装置、船用エンジン制御装置、商用車用エアブレーキ装置など



輸送用機器事業の売上高は前期比横ばいの482億円、営業利益は同2.6%増加の60億円となりました。

鉄道車両用機器は、中国向けでは政府鉄道部の不祥事や高速鉄道事故による投資先送りの影響を受けたほか、国内では新車両投入の端境期にあることから、減収となりました。船用機器は、中国向けスポット需要により増収となりました。商用車用機器については、トラックの新興国向け需要の増加により増収となりました。

海外売上高 (億円)

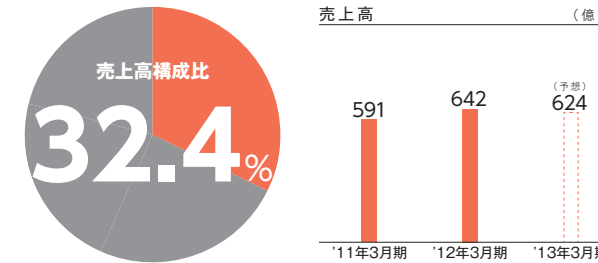


中国向けの売上は、中国鉄道用車両機器の需要などが落ち込んだことで若干減少したものの、ギルゲン社(スイス)の買収効果もあり、海外売上高比率は43.7%にまで上昇しました。

航空・油圧機器事業



事業内容 航空機用機器、建設機械用走行モーター、風力発電機用駆動装置など



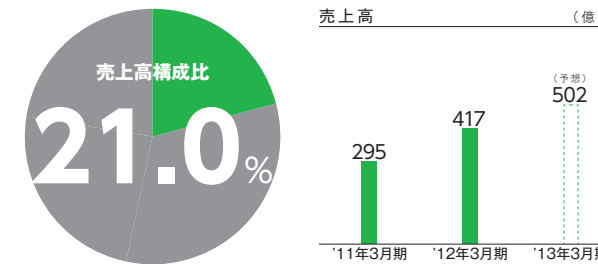
航空・油圧機器事業の売上高は前期比8.7%増加の642億円、営業利益は同9.3%増加の61億円となりました。

油圧機器は、上半期の中国における建設機械需要拡大が牽引役となり増収となりました。航空機器は、防衛需要向けが底堅く推移したほか、民間需要向けの拡大が寄与し増収となりました。

産業用機器事業



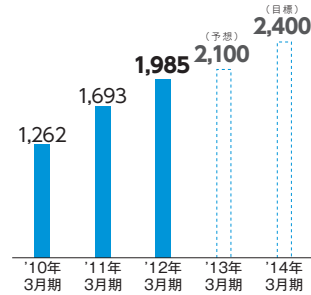
事業内容 建物用自動ドア、食品向包装機械、専用工作機械など



産業用機器事業の売上高は前期比41.3%増加の417億円、営業利益は同19.2%増加の26億円となりました。

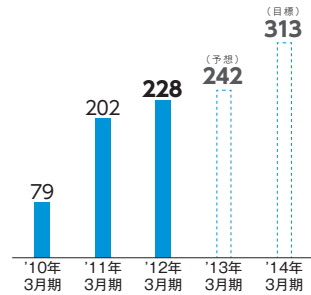
自動ドアは、国内需要が回復基調に転じるとともに、ギルゲン社の買収が寄与し増収となりました。包装機械は、国内食品メーカーの設備投資需要や中国など海外向け拡販が寄与し増収となりました。

売上高 (億円)



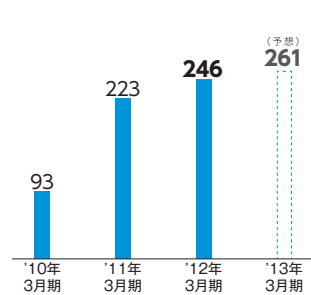
国内外の産業用ロボットの需要の拡大や上半期の中国の建設機械需要拡大、またギルゲン社買収の効果などにより増収となりました。

営業利益 (億円)



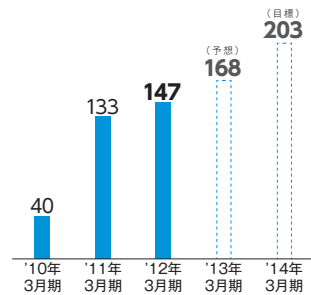
引き続き減価償却費の増加や、円高の進行による為替の影響などがあったものの、通期で売上高が増加したため増益となりました。

経常利益 (億円)



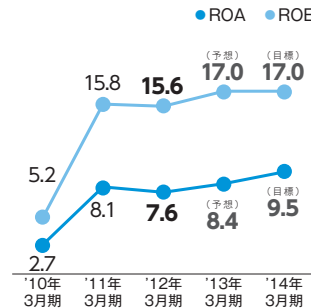
持分法適用関連会社の業績の悪化などがありました。為替差損の減少や営業利益が増加したことなどから増益となりました。

当期純利益 (億円)



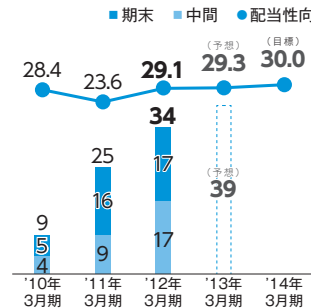
受取補償金の計上による特別利益の増加や、前期に解約補償金を特別損失として計上していたことなどにより増益となりました。

ROA / ROE (%)



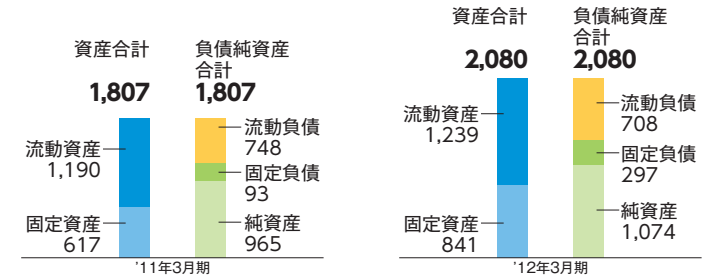
ギルゲン社買収の影響もあり、ROA 7.6%、ROE 15.6%となりました。2014年3月期末にROA 9.5%、ROE 17.0%を目指しています。

配当 / 配当性向 (円 / %)



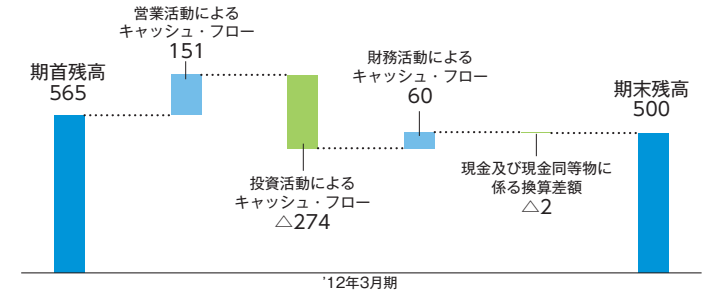
年間配当は前期に比べ9円増配の34円となりました。引き続き配当性向30%を目標に、安定した配当の継続を目指します。

財政状態 (億円)



資産はギルゲン社買収によるのれんの増加や有価証券の増加などにより増加しました。設備投資などを目的とした事業資金に充当するために借入による資金調達を行ったことや、2011年満期円貨建転換社債型新株予約権付社債の償還資金に充当するための無担保社債を発行したことなどにより、負債は増加しました。純資産は増益に伴う利益剰余金の増加により増加となりました。

キャッシュ・フローの状況 (億円)



売上増による税金等調整前当期純利益と仕入債務の増加により営業活動によるキャッシュ・フローは増加となり、長期借入や社債の発行による資金調達により財務活動によるキャッシュ・フローは増加しました。一方ギルゲン社の買収や設備投資などにより投資活動によるキャッシュ・フローが減少したため、当期末における現金及び現金同等物は減少しました。

設備投資額・研究開発費・減価償却費 (億円)

	2009年3月期	2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2012年～2014年累計額
設備投資額	91	48	63	135	380
研究開発費	41	37	39	52	150
減価償却費	58	54	53	66	—

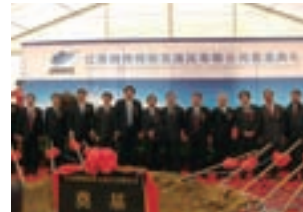
2011 4月 ギルゲン社買収

自動ドア事業の世界4極での事業展開体制の構築のため、スイスのKaba Holding AG から同社の子会社であるKaba Gilgen AGを買収し子会社化するとともに名称をGilgen Door Systems AGに変更しました。



2011 10月 江蘇納博特斯克液圧有限公司 設立

当社は、パワーコントロールカンパニーの第2工場として、江蘇納博特斯克液圧有限公司を合併会社として設立しました。現在当社では、中国市場向け建設機械の走行用油圧モーターを子会社である上海納博特斯克液圧有限公司(中国・上海市)で生産しています。中国の建設機械市場の拡大により走行用油圧モーターの需要はさらに高まることが予想され、第2生産拠点設立の必要性が出てきました。そのため、上海電気液圧気動有限公司との新合併会社として設立することとなりました。



CHECK!

2012 1月 IRIS(国際鉄道産業標準規格)の認証を取得

鉄道カンパニーは鉄道車両用のブレーキシステムとドアシステム分野で、鉄道車両分野のサプライヤーとその品質マネジメントシステムを評価する世界で認められた規格であるIRISの認証を取得しました。



2012 3月 「ハイブリッドニー」日本機械学会賞(技術)受賞

当社は1993年に世界で初めてインテリジェント義足を製品化したマイコン制御義足のパイオニアです。2006年から、従来の機能に加えて、階段や急な下り坂でも安全に安心して歩行できる次世代のインテリジェント義足『ハイブリッドニー(Hybrid Knee)』を販売しています。

急激な膝折れを防止し、階段や急な坂道での交互下りや椅子への座り動作など、いろいろな生活場面への対応を可能にし、すでに1,200本以上の販売実績をあげており、海外へも20カ国の代理店をとおして輸出されています。

このたび『ハイブリッドニー』が、一般社団法人日本機械学会殿より2011年度日本機械学会賞(技術)を受賞しました。

今後も製品の改良・開発に取り組み、義足使用者の生活の場を広げ、QOL(Quality of Life) 向上に努めてまいります。



2011年4月

●自動ドア事業の買収

5月

●3月期 決算発表
●3月期 決算説明会
●中期経営計画公表

6月

●第8回 定時株主総会

7月

●第1 四半期決算発表

8月

●本社移転

9月

●上海ビジネス
サポートセンター
業務開始

10月

●江蘇納博特斯克液圧
有限公司 設立
●第2 四半期決算発表

11月

●第2四半期決算説明会

12月

●無担保債発行

2012年1月

●第3四半期決算発表

2月

3月

2011 6月 ワシントン大学との技術共同研究と当社冠講座の開設

当社は、米国・ワシントン大学と将来のアクチュエーターに関する共同研究を目的として、同大学内に研究センターを設立し、併せて当社の冠講座を開設することとなりました。期間は2011年6月から10年間を予定しており、開設当初は、同大学が進めてきたFSMA(Ferromagnetic Shape Memory Alloy 磁場で変形する形状記憶合金)を使ったアクチュエーターをテーマに取り上げます。併せて隔年で世界の先進的なアクチュエーターの研究者を招聘して国際会議を開催し、アクチュエーターの世界的な研究促進に貢献することを目的としています。



2012 2月 ボーイング777 1,000号機用の「フライト・コントロール・アクチュエーション・システム」の納入を達成



当社で生産しているボーイング777の「フライト・コントロール(飛行制御)・アクチュエーション・システム」は1993年に1号機向けが納入されて以来、19年目にして1,000号機用製品の納入を迎えました。航空宇宙カンパニーは、岐阜工場において、ボーイング社(米国シアトル)およびボーイングジャパンからの来賓を招き、1,000号機製品の納入記念式典を開催しました。

2012 5月 タワー方式太陽熱発電プラント向け「太陽追尾駆動装置」を受注

太陽熱発電プラントのEPC事業者(Engineering, Procurement, Construction)であるCobra Thermosolar Plant社(米国)から、太陽熱発電プラントに設置される太陽追尾駆動装置(旋回軸)を受注いたしました。

当社が受注した太陽追尾駆動装置(旋回軸)は今後もっとも普及が見込まれている方式であるタワー方式太陽熱発電プラントにおいて、太陽光を反射させる鏡(ヘリオスタット)を太陽の動きに追尾させて中央タワーへ集光するための装置です。2012年度中の納入を予定しています。

当社は今回の受注により新たに太陽熱発電分野へ精密減速機を事業展開していきます。



会社概要 (2012年3月31日現在)

会社名	ナブテスコ株式会社	従業員数	単体 2,020人 連結 4,995人
設立	2003年9月29日	連結子会社	国内13社(他持分法適用会社6社) 海外28社(他持分法適用会社2社)
所在地	東京都千代田区平河町二丁目7番9号		
資本金	100億円		

役員 (2012年6月26日現在)

取締役会

取締役会長	松本和幸
代表取締役社長	小谷和朗
代表取締役専務取締役	坪内繁樹
常務取締役	三代洋右
常務取締役	今村雄二郎
取締役	青井博之
取締役	坂本勉
取締役	長田信隆
社外取締役	藤井晃二 (非常勤)
社外取締役	山中信義 (非常勤)

監査役会

監査役	高橋信彦
監査役	今村正夫
社外監査役	石丸哲也 (非常勤)
社外監査役	山田正彦 (非常勤)
社外監査役	三谷紘 (非常勤)

業務執行体制

最高経営責任者	小谷和朗
専務執行役員	坪内繁樹 (企画本部長兼ものづくり革新推進室長)
常務執行役員	三代洋右 (往環境カンパニー社長)
常務執行役員	今村雄二郎 (技術本部長)
常務執行役員	上岡忠志 (パワーコントロールカンパニー社長)
執行役員	片多博 (企画本部副本部長兼営業企画部長)
執行役員	青井博之 (コンプライアンス本部長)
執行役員	横山雄二 (ナブコダ(株)代表取締役社長)
執行役員	橋本正孝 ((株)ナブテック代表取締役社長)
執行役員	坂本勉 (鉄道カンパニー社長)
執行役員	長田信隆 (航空宇宙カンパニー社長)
執行役員	國井重人 (パワーコントロールカンパニー副社長兼計測制御システム部長)
執行役員	吉川敏夫 (精機カンパニー社長)
執行役員	尼子清夫 (航空宇宙カンパニー副社長:マーケティング担当)
執行役員	伊牟田幸裕 (鉄道カンパニー神戸工場長)
執行役員	寺本克弘 (往環境カンパニー副社長兼計画部長)
執行役員	坂井宏彰 (上海納博特斯克液圧有限公司 総経理)
執行役員	十万真司 (ナブテスコオートモーティブ(株)代表取締役社長)
執行役員	藤本行康 (ナブテスコサービス(株)代表取締役社長)
執行役員	中村賢一 (総務・人事本部長兼総務部長)
執行役員	松岡宏和 (東洋自動機(株)代表取締役社長)
執行役員	釣泰造 (船用カンパニー社長)

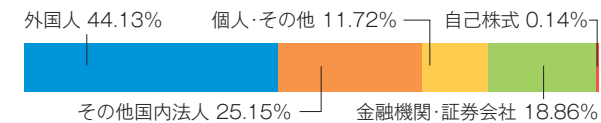
株式状況 (2012年3月31日現在)

発行済株式の総数	127,212,607株
株主数	12,107名

大株主 (2012年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
①株式会社神戸製鋼所	15,100	11.90
②STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	6,298	4.96
③日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,384	4.24
④JP MORGAN CHASE BANK 380055	5,354	4.22
⑤東海旅客鉄道株式会社	5,171	4.07
⑥帝人株式会社	4,469	3.52
⑦日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社神戸製鋼所口)	4,011	3.16
⑧RBC DEXIA INVESTOR SERVICES TRUST, LONDON-CLIENTS ACCOUNT	3,686	2.91
⑨日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,627	2.86
⑩TAIYO FUND, L. P.	3,307	2.61

所有者別株式数比率 (2012年3月31日現在)



●株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 毎年3月31日 中間配当 毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031(フリーダイヤル) 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店でっております。

ホームページのご案内

<http://www.nabtesco.com>

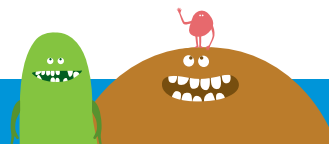


当社ホームページでは、当社に関するさまざまな情報を発信しております。

■住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申出先について
株主さまの口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■未払配当金の支払について
株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

■「配当金計算書」について
配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただけます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などにて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社にご確認をお願いします。なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただきます。確定申告をなされる株主さまは大切に保管ください。



自動ドア

1956年、日本で初めて自動ドアの製造を手がけて以来、一般建物用の各種自動ドアや、産業用ドア、プラットホームドアなどの商品を提供しています。「NABCO」ブランドで展開するナブテスコの自動ドアは世界のランドマークでも採用され、プラットホームドアも国内はもとより、香港地下鉄をはじめ中国・韓国でも使われています。

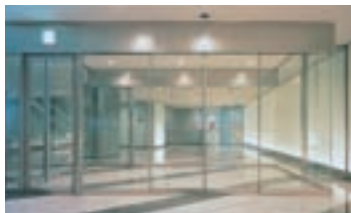
自  動



●製品紹介

建物・産業用自動ドア

自動ドアは最先端の技術と確かなノウハウに基づく信頼性の高い商品づくりで、オフィスビル、病院、デパートなどの建物、空港やアミューズメントパークなどの大型店舗から街の店舗、さらに工場やごみ処理場等の産業用設備まで数多くの実績があります。



プラットホームスクリーンドア

床面から天井までの高さのプラットホームドアです。可動式ホーム柵と同様、開閉は車両のドアと連動して自動制御されます。列車風や風雨の吹き込みを防いで快適なプラットホーム環境を実現するとともに、空調効率の向上にも貢献します。



可動式ホーム柵

鉄道の線路とプラットホームの間に設け、ホームからの転落や列車との接触を防止し、乗降客の安全を確保するプラットホームドアです。プラットホームスクリーンドアとともに、国内外に多くの実績を有し、既存駅にも設置しやすいことから今後需要の拡大が期待されています。



市場シェア

一般建物用の各種自動ドアや、気密・断熱・放射線遮へいなどの特殊な分野で機能を発揮する産業用ドア、鉄道駅に安全性と快適性の向上をもたらすプラットホームドアなどの商品を提供し、建物用自動ドアでは国内シェアの約50%を占めています。

■ ナブテスコ ■ その他企業群

建物用
自動ドア

国内シェア
約 **50%**

プラットホーム
スクリーンドア

国内シェア
約 **95%**

ナブテスコ 株式会社

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目7番9号

TEL:03-5213-1133 FAX:03-5213-1171

<http://www.nabtesco.com>



環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。